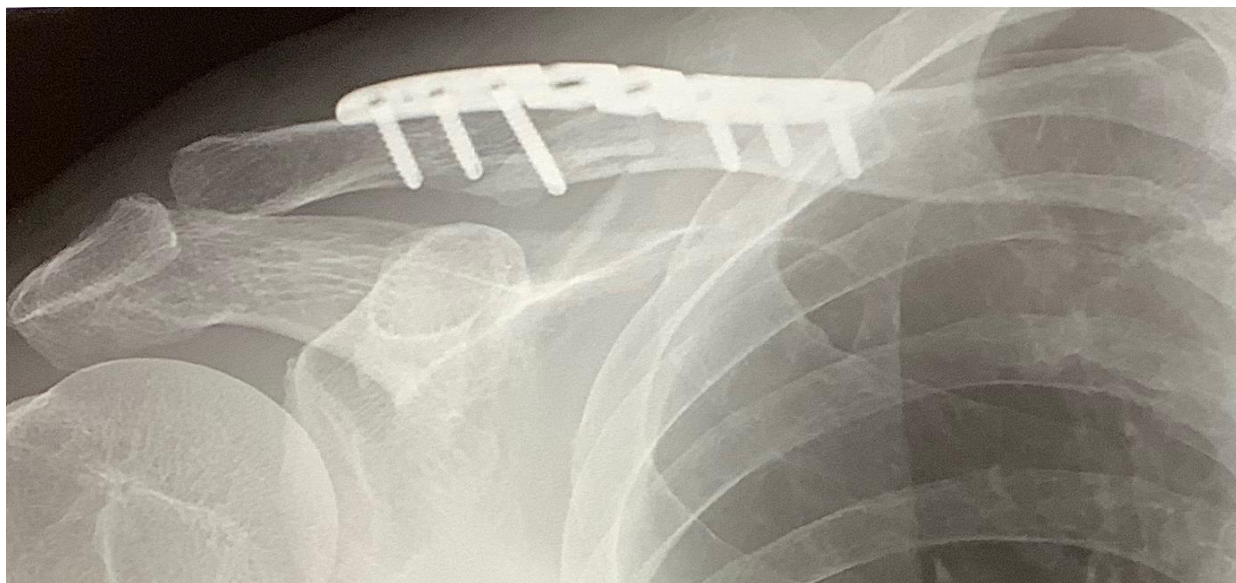


OM Clavicle Plate

取扱い説明書



Omic Corporation

プレートの選択

骨折部を整復した後、骨折線の入り方・骨片の大きさ・鎖骨の形状を考慮し、使用するプレートの種類・ホール数を決定します。

・プレートの種類



上方プレート
左右あり

全長(mm)	規格
82.8	7穴
93.5	8穴
104.2	9穴



前方プレート
左右共通

全長(mm)	規格
81.9mm	(7穴A)
91.9mm	(8穴A)
75.3mm	(7穴B)
87.8mm	(8穴B)



3Dプレート
左右あり

全長(mm)	規格
86.4	7穴
91.5	8穴
101.5	9穴

プレートの設置

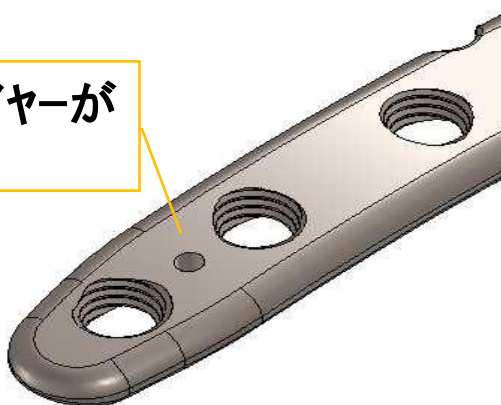
選択されたプレートを鎖骨に設置します。

- 設置位置の仮固定は $\phi 1.5\text{mm}$ k-ワイヤーを k-ワイヤー用ホールに刺入し固定できます。
- 必要に応じて骨把持器などを用いて鎖骨上のプレートの位置を保持しておきます。
- より鎖骨にプレートをフィットさせるためにベンディングが必要な場合は、テンプレートを用いて必要なベンディング量を測りベンダーで曲げを加えます。

※過度の曲げや繰り返しの曲げ伸ばしはプレートの破損に繋がりますのでご注意ください。

※スクリーホールが変形するベンディングは避けて下さい。

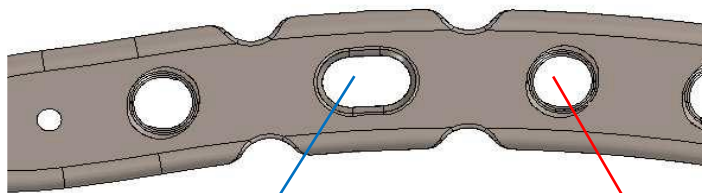
Φ 1.6mm以下のK-ワイヤーが
刺入可能



スクリューによる固定

目的に応じてφ3.5mmロックングスクリュー・φ3.5mmコーティカルスクリューを使い分けてスクリュー固定をします。

- プレートのスロットル(楕円)ホールにはφ3.5mmコーティカルが、その他のホールにはロックングコーティカル、どちらのスクリューでも使用が可能です。
- ドリル先、デプスゲージ、ドライバー先、ドライバー用ハンドルは両方のスクリューに共通です。



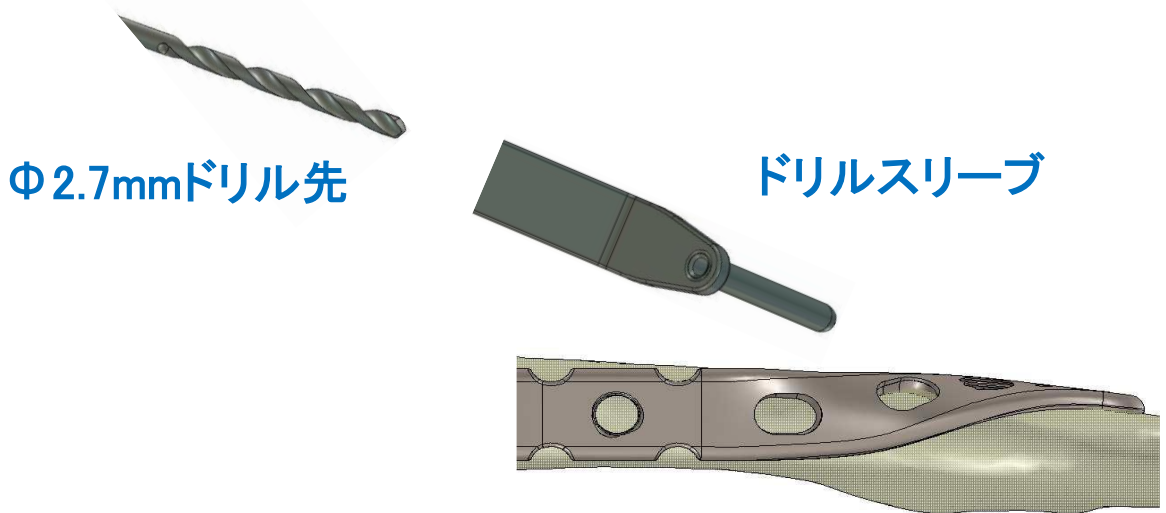
コーティカルスクリュー
のみ

コーティカル、ロックング
どちらも挿入可能

スクリューの挿入

a コーティカルスクリューの挿入

- ・スクリューホールにドリルスリーブをあてがい
 $\phi 2.7\text{mm}$ ドリル先を用いてドリリングを行います。



※鎖骨上方より下方へとドリリングを行われる際には
鎖骨下動脈・腕神経叢の損傷にご注意ください。

- ・デプスゲージで長さを計測します。コーティカル
の場合、表示の目盛りの長さより**1サイズ (2mm)**
長いスクリューを選択します。

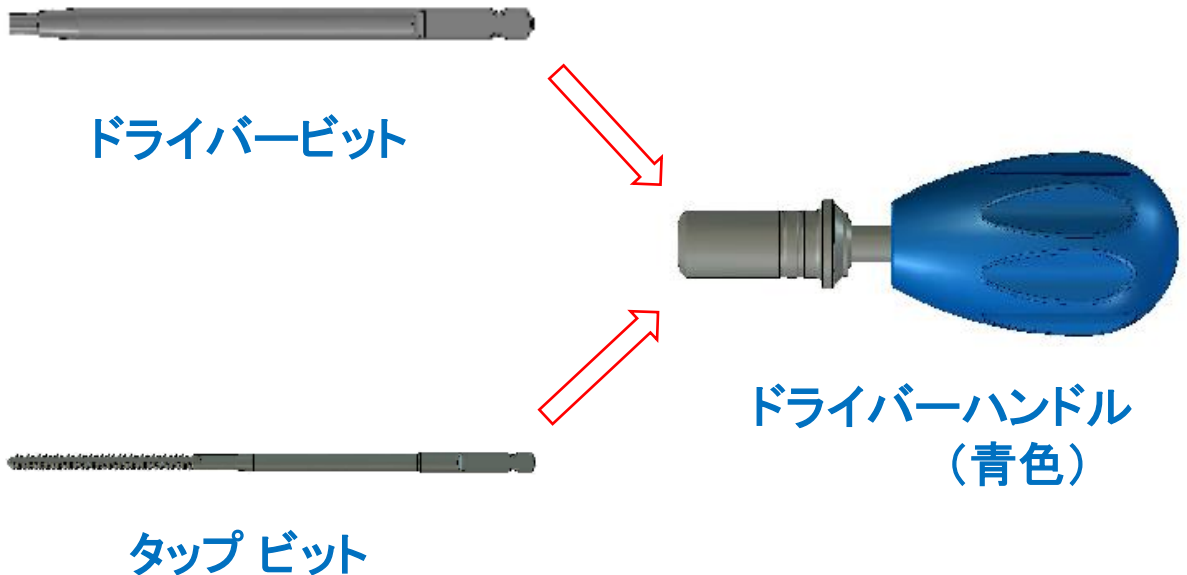


デプスゲージ (フック型)

スクリューの挿入

a コーティカルスクリューの挿入

- ドライバー先をドライバーハンドル（青色）と組み合わせ、スクリューを挿入します。



- 骨質などの条件によりタップが必要な場合は
タップ先とドライバーハンドル（青色）を用いて
タッピングを行います。

スクリューの挿入

b ロッキングスクリューの挿入

- ねじ切りのあるスクリューホールにロッキングスクリュー用ドリルガイドを設置します。
- ガイドを介し $\phi 2.7\text{mm}$ ドリル先にてドリリングを行います。

ロッキングドリルガイド



- ドリルガイドは手回し、又は専用のレンチを用いて脱着が可能です。



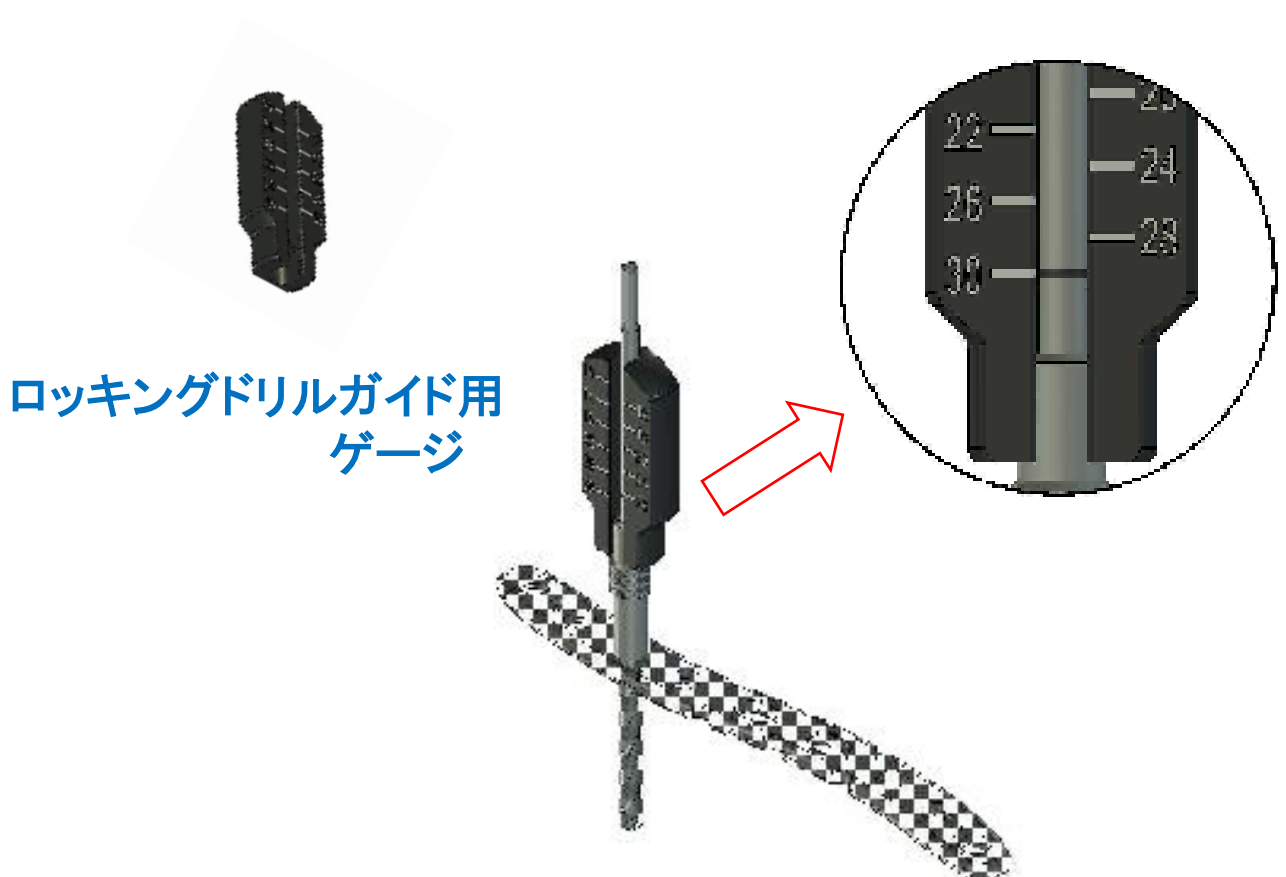
ロッキングドリルガイド用レンチ



スクリューの挿入

b ロッキングスクリューの挿入

- ロッキングスクリューはドリル先の軸の目盛りを使い計測ができます。
ドリリング後、ドリル先先端の突出量を確認し
ドリルガイドに専用のゲージをあてがい計測します。
スクリューは**計測値通りのサイズ**を選択します。
- ドライバー先をドライバーハンドル（青色）と組み合わせ、スクリューを挿入します。



スクリューの挿入

b ロッキングスクリューの挿入

- デプスゲージで長さを測る場合はドリルガイドを外してから計測します。
- ロッキングスクリューは表示の目盛りの長さのスクリューを選択します。



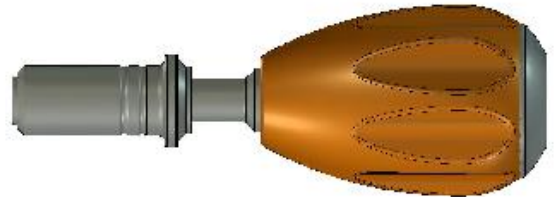
スクリューの挿入

b ロッキングスクリューの挿入

- ドライバーハンドル（青色）を用いてロッキングスクリューを挿入した後、ロッキングスクリューの締め付け具合を確認するためにドライバー先をトルクハンドル（黄色）と組み合わせクリック音がするまで増し締めを下さい。



ドライバービット



トルクハンドル
(黄色)

- 必要なスクリューが挿入されましたら洗浄後縫合に移ります。